

⑤

高齢者福祉事業

【長寿課】

資料

外部評価実施日：平成29年8月3日（木）

高齢者福祉事業

平成29年8月3日
福祉部 長寿課

1 事業概要（A票）

◆事業の名称

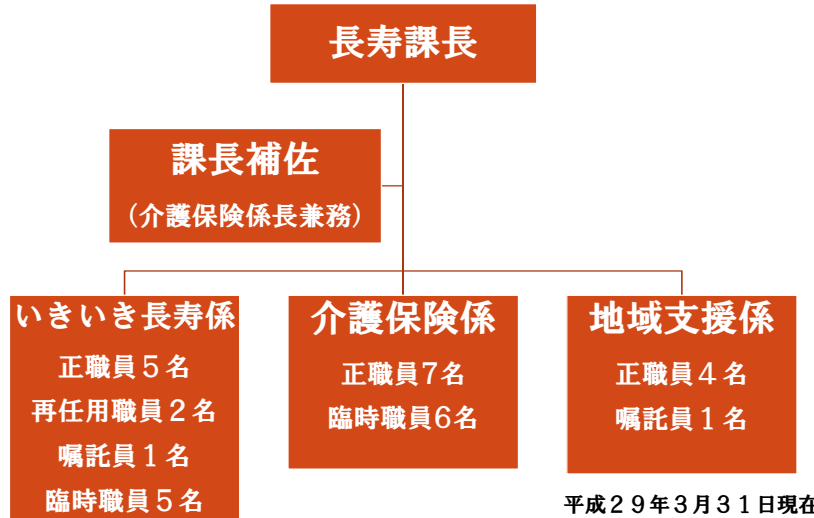
高齢者福祉事業

◆事業の開始の背景、経緯等

高齢者等の健康の保持、日常生活の助長を図ることで、安心して生活できる環境整備を図ることを目的とする。

2 事業の実施体制（A票）

◆組織体制、人員（育休・産休職員2名含む）



3(1) 事業目的等（A票）

◆事業内容（どのような事業なのか）

加齢や認知症の進行等により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活上のサービス支援を行うことで、健康的な日常生活の維持を図る。

◆事業対象（誰、何を対象にしているか）

65歳以上の市民等

3(2) 事業目的等 (A票)

◆事業意図 (対象をどのような状態にしたいか)

高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる。

◆事業を構成する事務事業 (B票)

② 「食」の自立支援事業

⑥ ワンコインサービス事業

⑧ 緊急通報システム設置事業

⑪ ホームヘルパー派遣事業

⑫ デイサービス事業

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

「食」の自立支援事業

◆目的 (対象・手段、意図)

【対象者】

- 買い物、調理等が困難で日常生活に支障のある次のいずれかの方
- ・65歳以上のひとり暮らしの方
 - ・75歳以上の方のみの世帯

【内容】

市役所が1食300円(安否確認と宅配料)を負担し、給食宅配による栄養管理と安否確認を行い、高齢者が食生活の改善により健康的な、自立した生活を送ることができるようにする。

◆事務事業の活動状況

平成28年度は、月平均150名程の利用者があり、年間で33,276食の配食を行った。

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

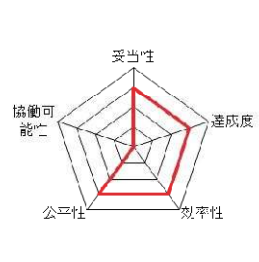
◆前年度からの改善状況

配達事業者の選択制を導入したことにより、メニュー、利用料、利用時間帯等の選択の幅を広げ、利用者の細かなニーズに対応できるようになった。

市負担額を370円から300円に改正し、適正な受益者負担への見直しを行った。

◆事務事業の評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	-



4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業②】 (B票)

◆アピールポイント

平成29年度から複数事業者からの選択制を導入。選択する事業者によっては、夕食の配食も可能となった。

◆ウイークポイント

高齢者の増加に伴い、今後も利用者数、配食数の増加が見込まれるため、将来的には財政負担を考慮した要件等の見直しの検討も必要。

◆今後の方向性

現状維持

◆事務事業の評価に対するコメント

一人暮らしの高齢者等の健康の保持、食生活の改善、日常生活の助長を図るとともに、安否の確認を行うため、今後も事業を継続する。

利用者アンケートを定期的実施することで、利用者のニーズ、満足度等の把握に努める。

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑥】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

ワンコインサービス事業

◆目的（対象・手段、意図）

【対象者】

- ・ 65歳以上のひとり暮らしの方
- ・ 75歳以上の方のみの世帯

【内容】

在宅の高齢者が抱える軽度な日常生活の困りごとを、100円又は500円のワンコインで有償ボランティアが手伝う。

◆事務事業の活動状況

利用登録者数は平成28年度末で186人。延べ437件の利用で、年々増加傾向にある。

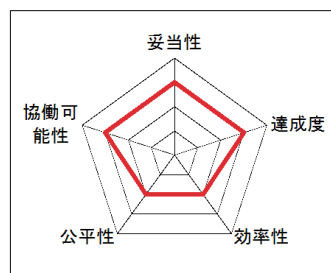
4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑥】 (B票)

◆前年度からの改善状況

ワンコインサービスの提供者との間で、制度についての意見交換会や利用者・支援者のアンケート調査を実施し、制度改善についての検討を進めている。

◆事務事業の評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	3



4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業⑥】 (B票)

◆アピールポイント

高齢者が日常生活でちょっと困っていることを地域のボランティアが解決することで、人とのつながりや安心感を持っていただける。

◆ウイークポイント

サービス利用の拡大や提供者として登録してあるものの、活動できていない方がいる。

◆今後の方向性

改善・見直し

◆事務事業の評価に対するコメント

平成29年3月から新しい総合事業が開始した。業務委託を開始し、より円滑に利用者と提供者とのマッチングを行い、利用者も提供者も地域の中で支え合える事業を目指す。

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑧】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

緊急通報システム設置事業

◆目的(対象・手段、意図)

【対象者】

- ・65歳以上のひとり暮らしの方
- ・75歳以上の方のみの世帯
- ・日中又は夜間において長時間に渡り独居状態になる重度身体障がい者

【内容】

緊急通報装置を貸出し、センターによる定期的な安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成し、高齢者等の日常生活における不安を軽減、安心して生活できるようにする。

◆事務事業の活動状況

平成28年度は月平均190名程の利用者があり、急速な高齢化、核家族化による利用者は増加傾向である。

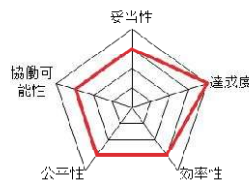
4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑧】 (B票)

◆前年度からの改善状況

継続実施することで、高齢者等が安心して生活できる環境整備の支援を行った。

◆事務事業の評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業⑧】 (B票)

◆アピールポイント

緊急通報装置の貸出、センターによる定期的な安否確認により、ひとり暮らし高齢者等が安心して生活することができる。

◆ウイークポイント

対象世帯に対する利用率が低く、まだまだ、必要な方へ事業の周知がされていない可能性がある。

◆今後の方向性

現状維持

◆事務事業の評価に対するコメント

高齢者等が安心して生活できる環境整備を図るため、今後も事業を継続する。

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑪】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

ホームヘルパー派遣事業

◆目的（対象・手段、意図）

【対象者】

・65歳以上のひとり暮らしの方又は75歳以上の方のみの世帯で、次のいずれかに該当する者。①要介護認定にて非該当判定の方②要介護認定申請中の方。

【内容】

調理、衣類の洗濯及び補修、住居等の掃除及び整理整頓、生活必需品の買い物等の支援を行う。

◆事務事業の活動状況

利用人数は数人程度で推移している。

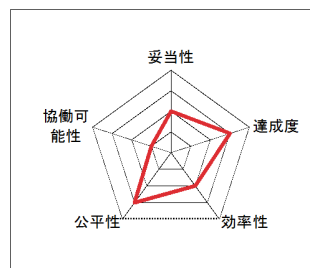
4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑪】 (B票)

◆前年度からの改善状況

新しい総合事業の開始に伴い、本事業を廃止する。

◆事務事業の評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	1



4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業⑪】 (B票)

◆アピールポイント

要介護認定に非該当又は要介護認定申請中の方であっても、必要に応じてサービス利用ができる。

◆ウイークポイント

現在、事業は介護保険事業者への委託となっており市民協働の余地がほとんどない。

◆今後の方向性

休・廃止

◆事務事業の評価に対するコメント

平成29年3月から新しい総合事業が開始した。基本チェックリストを実施し、事業対象者となれば、同等のサービスを利用することができるため、本事業は廃止する。

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑫】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

デイサービス事業

◆目的（対象・手段、意図）

【対象者】

65歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の方のみの世帯、介護認定申請中の方又は要介護認定で非該当の方

【内容】

日常生活訓練や趣味活動を通して、身体的な機能低下を防ぎ、生きがいのある生活を送る。

◆事務事業の活動状況

利用人数は数人程度で推移している。

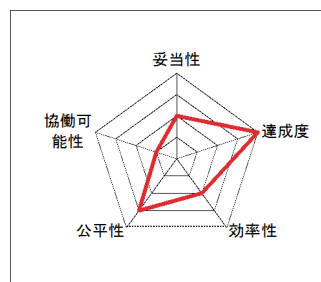
4 事務事業の目的・活動状況【事務事業⑫】 (B票)

◆前年度からの改善状況

新しい総合事業の開始に伴い、本事業を廃止する。

◆事務事業の評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	4
効率性	2
公平性	3
協働可能性	1



4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業⑫】 (B票)

◆アピールポイント

要介護認定に非該当または要介護認定申請中の方であっても、必要に応じてサービス利用ができる。

◆ウイークポイント

現在、事業は介護保険事業者への委託となっており市民協働の余地がほとんどない。

◆今後の方向性

休・廃止

◆事務事業の評価に対するコメント

平成29年3月から新しい総合事業が開始した。基本チェックリストを実施し、事業対象者となれば、同等のサービスを利用することができるため、本事業は廃止する。

5 コスト（A票）

◆平成28年度事業費

54,409千円

◆平成28年度人件費

12,493千円

◆事業費の主な内訳

・高齢者支援システム賃借料	4,324千円
・食の自立支援事業委託	12,312千円
・緊急通報システム・保守点検業務委託	9,629千円
・電子連絡帳システム賃借料	2,592千円
・高齢者福祉事業計画策定委託	1,766千円

6 事業の成果【成果指標①】 （A票）

◆事業の成果指標

配食数

◆事業の成果目標

34,100食

◆事業の成果実績

33,276食

◆成果指標、目標等の設定理由

長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。

6 事業の成果【成果指標②】 (A票)

◆事業の成果指標

事業利用者数

◆事業の成果目標

378人

◆事業の成果実績

528人

◆成果指標、目標等の設定理由

長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。

6 事業の成果【成果指標③】 (A票)

◆事業の成果指標

累積記事数

◆事業の成果目標

12,000記事

◆事業の成果実績

15,823記事

◆成果指標、目標等の設定理由

長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。

7 環境変化（A票）

◆近隣市町の取組状況や事業を取り巻く環境変化

近隣市町においても同様のサービスが提供されている。

8 事業の評価（A票）

◆事業の目標達成状況

目標を達成できていない事業もあるが、着実に高齢者等の生活の支援を行っている。

◆事務事業全体を見た課題

今後の急速な高齢化に伴い、現行制度では近い将来に財源不足になることが予測されるため、介護予防・日常生活支援総合事業の推進と合わせた事業の見直しが必要と考えられる。

9 事業の今後（A票）

◆事業の今後の方向性

支援を必要としている人に確実な支援ができるよう、制度の周知、利用方法の改善を進める必要がある。

◆事業の中長期の目標

対象要件の見直し、補助事業の統廃合により、交付申請手続きの簡易化を図り、利用者の利便性を図る。

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	42 - 1	事業名	高齢者福祉事業	担当部課	福祉部長寿課
------	--------	-----	---------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	2	老人福祉費
		政策分類	2	住民サービスを向上させる	大事業	4	高齢者福祉事業
	その他（関係法令、要綱等）	シニアクラブ運営事業費補助金交付要綱、「食」の自立支援事業実施要綱、家具転倒防止事業実施要綱、寝具・洗濯乾燥事業実施要綱					
事業開始の背景、経緯等	高齢者等の健康の保持、日常生活の助長を図ることで、安心して生活できる環境整備を図ることを目的とする。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 加齢や認知症の進行等により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活上のサービス支援を行うことで、健康的な日常生活の維持を図る。						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 65歳以上の市民等						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる。						
	事業を構成する事務事業	① 老人福祉事務事業	拡充	④ 寝具洗濯乾燥事業	現状維持			
	② 「食」の自立支援事業	現状維持	⑤ 徘徊高齢者等家族支援事業	現状維持				
	③ 家具転倒防止事業	拡充	⑥ ワンコインサービス事業	改善・見直し				

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			54,537	56,473
決算						57,310	54,409	
人件費(B)	千円	決算			8,850	12,493		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			66,160	66,902		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A シニアクラブ会員数	人	目標	—	1,435	1,490	1,550	1,610
実績			1,481	1,435	1,547	1,549		
B 配食数	食	目標	24,700	22,832	30,200	34,100	38,600	
		実績	15,116	24,915	32,424	33,276		
C 利用者満足度	%	目標	—	—	—	—	70	
		実績	—	—	—	—	—	

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。(老人福祉事務事業)

B 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。('食'の自立支援事業)

C 利用者アンケートによる満足度調査から目標値を設定。('食'の自立支援事業)

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様のサービスが提供されている。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標を達成できていない事業もあるが、着実に高齢者等の生活の支援を行えている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後の急速な高齢化に伴い、現行制度では近い将来に財源不足になることが予測されるため、介護予防・日常生活支援総合事業の推進と合わせた事業の見直しが必要と考えられる。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支援を必要としている人に確実な支援ができるよう、制度の周知、利用方法の改善を進める必要がある。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 対象要件の見直し、補助事業の統廃合により、交付申請手続きの簡易化を図り、利用者の利便性を図る。

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	42 - 2	事業名	高齢者福祉事業	担当部課	福祉部長寿課
------	--------	-----	---------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針		会計	
		分野別項目		款	
		施策の進め方		項	
	まちづくり 行程表	フラッグ		目	
		政策分類		大事業	
	その他(関係法令、要綱等)				
事業開始の背景、経緯等					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか)			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか)			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか)			
	事業を構成する事務事業	⑦ 防犯対策事業	改善・見直し	⑩ 生涯学習事業	拡充
	⑧ 緊急通報システム設置事業	現状維持	⑪ ホームヘルパー派遣事業	休・廃止	
	⑨ 在宅医療介護連携事業	現状維持	⑫ デイサービス事業	休・廃止	

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	予算					
			決算					
	人件費(B)	千円	決算					
総コスト(A)+(B)	千円	決算						

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	D 事業利用者数	人	目標	351	309	347	378	398	
			実績	295	340	397	528		
	E 累積記事数	記事	目標	-	-	5,000	12,000	20,000	
			実績	-	-	8,161	15,823		
	F 講座等参加者数	人	目標	-	-	-	519	373	
			実績	-	-	-	440		
	【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
	D 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。(家具転倒防止事業、寝具洗濯乾燥事業、徘徊高齢者等家族支援事業、ワンコインサービス事業、防犯対策事業、緊急通報システム設置事業、ホームヘルパー派遣事業、デイサービス事業)								
	E 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。(在宅医療介護連携事業)								
F 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。(生涯学習事業)									

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・緊急通報システム事業…瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町 ・ホームヘルパー派遣事業…瀬戸市、尾張旭市、日進市、東郷町 ・デイサービス事業…瀬戸市尾張旭市、日進市、豊明市
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など)
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理)

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性)
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか)

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	42 - 3	事業名	高齢者福祉事業	担当部課	福祉部長寿課
------	--------	-----	---------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針		会計	
		分野別項目		款	
		施策の進め方		項	
	まちづくり 行程表	フラッグ		目	
		政策分類		大事業	
	その他(関係法令、要綱等)				
事業開始の背景、経緯等					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか)			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか)			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか)			
	事業を 構成する 事務事業	⑬ 高齢者住宅等安心確保事業	現状維持	⑯	
	⑭ 認知症介護家族支援事業	休・廃止	⑰		
	⑮ 高齢者福祉事業計画策定事業	現状維持	⑱		

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	予算					
			決算					
	人件費(B)	千円	決算					
総コスト(A)+(B)	千円	決算						

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	G 開催講座数	講座	目標	-	-	-	25	34
			実績	-	-	-	25	
	H 入居者数(年度末)	世帯	目標	24	24	24	24	24
			実績	23	23	22	24	
	I 策定委員会開催数	回	目標	1	5	-	2	5
			実績	1	5	-	2	
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
G 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。(生涯学習事業)								
H 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。(高齢者住宅等安心確保事業)								
I 高齢者福祉事業計画策定委員会の開催数について、アンケート実施・報告、サービス見込量推計、計画案検討、保険料推計、計画の承認等に必要となる委員会開催回数から目標値を設定。(高齢者福祉事業計画策定事業)								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など)
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理)

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性)
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか)

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	①	事務事業名	老人福祉事務事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和40年度（シニアクラブ）		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 65歳以上の市民等の福祉向上のための活動支援を行っている。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			19,748	18,657	16,985
		決算			18,921	18,185	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
シニアクラブ会員数	人	目標	—	1,435	1,490	1,550	1,610
		実績	1,481	1,435	1,547	1,549	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

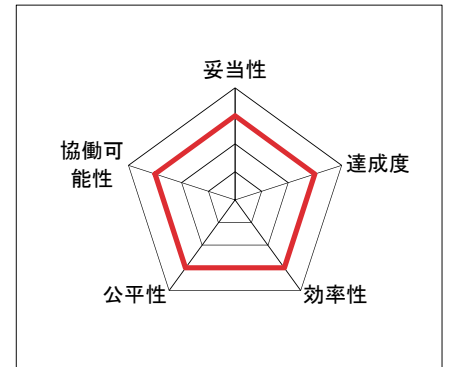
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 少子高齢化社会の進展により今後も高齢者の増加が見込まれるため、地域で活動し、生きがいを持って充実した生活を送るための支援が必要となる。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 新規行政評価対象事業 (何をどのような状態に改善したのか) 高齢者生きがい活動推進事業委託として、これまでの活動を超えた新たな活動への取組を推進した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 平成28年度は、長久手市シニアクラブ連合会創立50周年記念事業を数多く実施し、会の活動状況等のPRを積極的に行った。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 事務局である社会福祉協議会との情報共有を密にし、より効果的な支援を行う必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) シニアクラブ連合会が取組んでいる会員数の増加、新たな活動への支援のため、啓発活動、補助金制度の改正等により支援を継続する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業										
番号	②	事務事業名	「食」の自立支援事業		款	3	項	1	目	2	大	4	中	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成18年度			終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<p>【対象者】買い物、調理等が困難で、日常生活に支障のある次のいずれかの方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 <p>【内容】市役所が1食300円（安否確認と宅配料）を負担し、給食宅配による栄養管理と安否確認を行う。</p>
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者が食生活の改善により健康的な生活を送ることで、自立した生活に戻る足がかりをつかむことができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			19,276	13,481	0
		決算			22,558	13,168	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
配食数	食	目標	24,700	22,832	30,200	34,100	38,600
		実績	15,116	24,915	32,424	33,276	
利用者満足度	%	目標	—	—	—	—	70
		実績	—	—	—	—	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

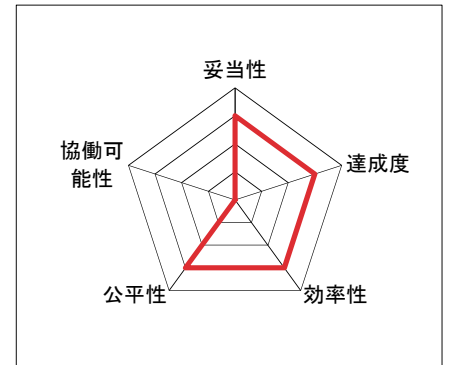
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急激な高齢化に伴い利用者数、配食数も急増しており、行政負担を含めた制度の在り方の見直しが求められる。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
一人暮らしの高齢者等の健康の保持、食生活の改善、日常生活の助長を図るとともに、安否の確認を行うため、今後も事業を継続する。
高齢者がより健康的な生活を送れるよう、利用方法の見直し等を行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
配達事業者の選択制を導入したことにより、メニュー、利用料、利用時間帯等の選択の幅を広げ、利用者の細かなニーズに対応できるようになった。
市負担額を370円から300円に改正し、適正な受益者負担への見直しを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
平成29年度から複数事業者からの選択制を導入。選択する事業者によっては、夕食の配食も可能となった。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
高齢者の増加に伴い、今後も利用者数、配食数の増加が見込まれるため、将来的には財政負担を考慮した要件等の見直しの検討も必要。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
一人暮らしの高齢者等の健康の保持、食生活の改善、日常生活の助長を図るとともに、安否の確認を行うため、今後も事業を継続する。
利用者アンケートを定期的実施することで、利用者のニーズ、満足度等の把握に努める。
※平成29年度から予算科目を変更したため、予算額は0としている。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	③	事務事業名	家具転倒防止事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成17年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象 ・ 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 ・身体障害者手帳2級以上の方 ・要介護認定で要介護3以上の方 【内容】 家具転倒防止器具設置費用の9割を助成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が安心して生活できる環境整備を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			146	153	153
		決算			102	136	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	45	6	10	13	15
		実績	5	3	12	11	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

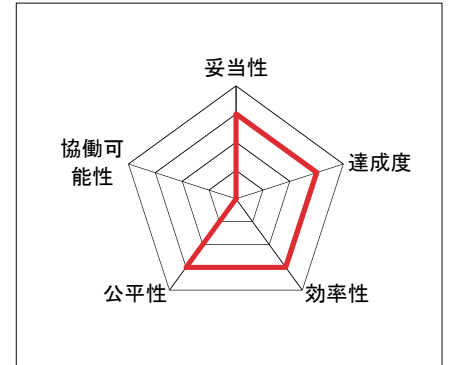
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成28年4月に熊本地震が起り、防災に対する意識が高まった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者等が安心して生活できる環境を整備し、経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
取付器具の種類を1種類から3種類へ増やし、対応できる家具を拡大する。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
実際の取付工事費の1割のみのご負担で、地震に対応できる固定金具の取り付けを行うことができる。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
大地震が起こると防災に対する意識が向上し、利用者が増加するが、時間の経過と共に意識が低下して利用も減少する。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
利用状況を精査し、より多くの方に利用いただいているよう引き続き、設置器具等の制度の検討を進める。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	④	事務事業名	寝具洗濯乾燥事業	款	3	項	1	目	2	大	4	中	4
事務事業の期間		事務事業開始年度		昭和62年		終了（予定）年度		—					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・ 65歳以上で要介護3以上の寝たきり状態、又は認知症の方 ・ 65歳以上のひとり暮らしの方 ・ 75歳以上の方のみの世帯 ・ 身体障がい者手帳1～2級の方 【内容】 寝具洗濯乾燥費用の9割を助成
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、衛生的で快適な生活を送ることができる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			551	551	551
		決算			528	841	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	45	52	55	57	60
		実績	62	55	68	100	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

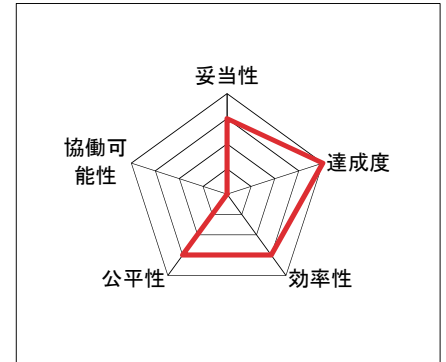
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急激な高齢化に伴い利用者数が急増しており、行政負担を含めた制度の在り方の見直しが求められる。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者等が快適な生活を送れる環境を整備するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
継続実施することで、高齢者の衛生的な環境整備の支援を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
平成28年度に大幅な利用者の増加があり、事業の認知度が上がったと考えられる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
高齢者の増加に伴い、今後も利用者数の増加が見込まれるため、将来的には財政負担を考慮した要件等の見直しの検討も必要。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
寝具洗濯が必要な時期に実施し、高齢者等が快適な生活を送れるよう今後も事業を継続する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑤	事務事業名	徘徊高齢者等家族支援事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	5
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成13年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 不意の外出（徘徊）の見られる認知症高齢者や知的障がい者等を介護する家族及び保護者 【内容】 GPS機能のある専用端末を貸し出し、保護の対象者が行方不明になった時の早期発見に役立てる。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	不意の外出（徘徊）の見られる認知症高齢者や知的障がい者等を介護する家族及び保護者が安心して介護できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			147	210	210
		決算			194	264	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	6	3	4	6	8
		実績	2	2	3	5	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

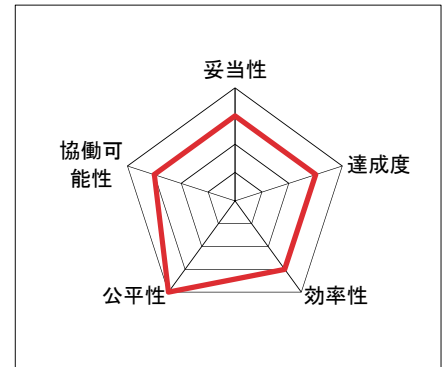
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
IT技術の進化により、様々な機器が開発されており、利用端末の種類、メーカー、サービス提供事業者が増加している。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
介護する家族及び保護者等が安心して介護できる環境を整備するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
継続実施することで、介護者等が安心して介護できる環境整備の支援を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
本事業の利用により、介護者の不安、負担の軽減に貢献できている。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
他市町の類似サービスがあり、参考にしつつ事業内容の検討も必要。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
利用者の増加に向けた事業の啓発を行う。 他市町の類似サービスの調査、研究を行い、事業内容の見直しを行う。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑥	事務事業名	ワンコインサービス事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	6
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成25年度		終了（予定）年度								

1. 事務事業の目的

対象・手段	<p>(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)</p> <p>【対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 <p>【内容】</p> <p>在宅の高齢者が抱える軽度な日常生活の困りごとを、100円又は500円のワンコインで有償ボランティアが手伝う。</p>
意図	<p>(対象をどのような状態にしたいか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域で安心して暮らせるようにする。 ・元気な高齢者が有償ボランティアを担うことによる生きがいづくりの促進、または地域での支え合いづくりを促進する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			144	144	0
		決算			144	170	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	60	90	105	115	125
		実績	62	97	119	186	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

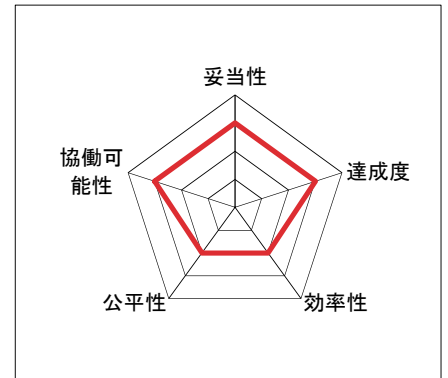
<p>(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)</p> <p>介護保険制度の改正に伴い平成29年4月までに開始する新しい総合事業と連携して事業を実施する必要がある。 (平成29年度の事業費については、いきいきサービス事業委託費として、総合事業として一体的に計上)</p>

5. 前年度からの改善状況

<p><参考：前年度の事務事業評価のコメント></p> <p>現在、市職員が利用者と提供者のマッチングと連絡調整を逐次行っており効率が悪い。地域の人同士の支え合いがベースになるようより柔軟な事業運営の仕組みを検討したい。</p>
<p>(何をどのような状態に改善したのか)</p> <p>ワンコインサービスの提供者との制度についての意見交換会や利用者や支援者のアンケート調査を実施し、制度改善についての検討を進めている。</p>

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	3



【アピールポイント】

<p>(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)</p> <p>地域の高齢者の方に対して日常生活でちょっと困っていることを地域のボランティアが解決することで、人とつながりや安心感を持っていただける。</p>

【ウイークポイント】

<p>(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)</p> <p>サービス利用の拡大や提供者として登録してあるものの、活動できていない方がみえる。</p>

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

<p>(改善の方法、今後の具体的展開など)</p> <p>平成29年3月から新しい総合事業が開始した。業務委託を開始し、より円滑に利用者と提供者とのマッチングを行い、利用者も提供者が地域の中で支え合える事業を目指す。</p> <p>※平成29年度から予算科目を変更したため、予算額は0としている。</p>
--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業										
番号	⑦	事務事業名	防犯対策事業		款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	7
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成17年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 【内容】 玄関前等にセンサーライトを取り付ける費用を9割助成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者宅の侵入盗等が軽減され、安心して生活することができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			207	207	122
		決算			121	224	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	件	目標	45	18	20	22	25
		実績	11	11	8	15	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

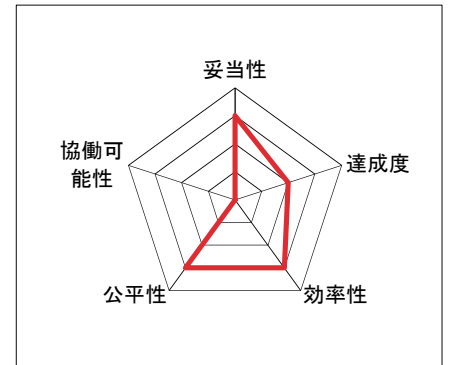
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化、核家族化によって、防犯対策による安心・安全な住宅への需要が高まっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者が安心できる生活環境を整備するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
対応器具の種類を、ソーラー式に加えてコンセント式を導入し選択できるようにすることで、設置場所の条件に対応した機器の取り付けが可能となった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
実際の取付工事費の1割のみのご負担で、センサーライトの取り付けを行うことができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
年度によって利用者の増減があるため、更なる事業の周知が必要である。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
利用状況を精査し、より多くの方に利用いただいているよう引き続き、制度の検討を進める。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑧	事務事業名	緊急通報システム設置事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	9
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成8年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・ 65歳以上のひとり暮らしの方 ・ 75歳以上の方のみの世帯 ・ 日中又は夜間において長時間に渡り独居状態になる重度身体障がい者 【内容】 緊急通報装置を貸出し、センターによる定期的な安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者等の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			9,548	10,248	10,210
		決算			9,498	9,907	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数 (年度末)	人	目標	125	134	145	155	165
		実績	147	165	182	198	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

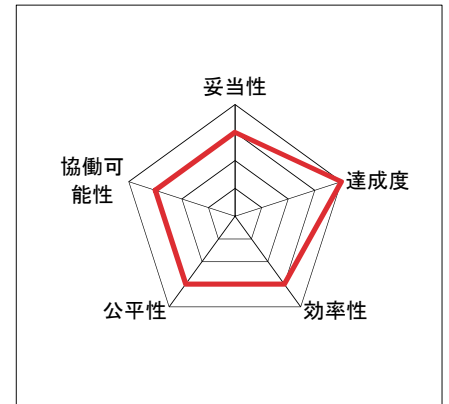
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化、核家族化によって、日常生活上の不安を軽減し、安心して生活できる環境整備への需要が高まっている。 (高齢者実態把握調査対象世帯2,064世帯【平成28年8月1日現在】)

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者等が安心して生活できる環境整備を図るため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
継続実施することで、高齢者等が安心して生活できる環境整備の支援を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
緊急通報装置の貸出、センターによる定期的な安否確認により、ひとり暮らし高齢者等が安心して生活することができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
対象世帯に対する利用率が低く、まだまだ、必要な方へ事業の周知が届いていない可能性がある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
高齢者等が安心して生活できる環境整備を図るため、今後も事業を継続する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑨	事務事業名	在宅医療介護連携事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	10
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成26年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市民がいつまでも自分らしい生活を続けていくことができるように病院、診療所、歯科医院、薬局、訪問看護ステーション、介護保険事業所、地域包括支援センター、行政等が電子@連絡帳システム（多職種情報共有基盤）を活用して連携し、みなさまを医療・介護・福祉の面から支援する体制の構築をめざす。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	情報システムの活用により、多職種が情報連携を図り、市民の適切なケアを推進すること。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			2,592	2,592	0
		決算			2,592	2,592	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
累積記事数	記事	目標	—	—	5,000	12,000	20,000
		実績	—	—	8,161	15,823	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

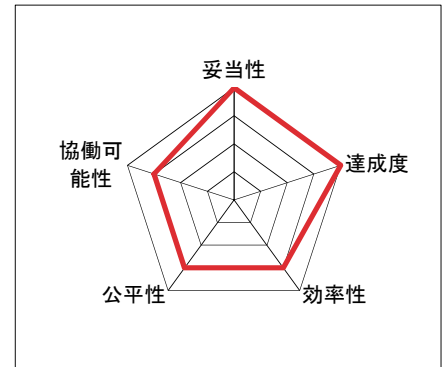
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
高齢化の進行により、医療・介護のニーズが高まる中、医療と介護が連携して地域で適切なケアが推進される必要がある。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
新規行政評価対象事業
(何をどのような状態に改善したのか)
平成28年度には、尾張東部医療圏域で電子@連絡帳システムに登録していれば、他市町のネットワークであっても広域利用を可能とした。同一の医療圏域であれば、市外の事業所であっても支援チームへの参加が可能になり、支援の幅が広がった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
記事数は順調に伸びている。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
全ての専門職が本システムを活用している状況ではない。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
本システムに登録している専門職の中でも、活用頻度に差があるため、さらなる利用促進のために普及啓発を進める必要がある。
※平成29年度から予算科目を変更したため、予算額は0としている。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑩	事務事業名	生涯学習事業	款	3	項	1	目	2	大	4	中	11
事務事業の期間		事務事業開始年度	平成15年度	終了（予定）年度		—							

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 市内に居住しかつ住所を有する60歳以上の者（講座開講中に60歳になる者も含む） 【内容】 高齢者の健康増進、生きがいがづくり、教養の向上を目的に、福祉の家で年4クールで講座を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者自ら進んで地域に参加し、高齢者同士のつながりを強化するための機会を拡充することによって、生きがいがづくり、介護予防、認知症予防につなげる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			—	3,483	3,534
		決算			—	3,239	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
参加人数	人	目標	—	—	—	459	373
		実績	—	—	—	381	
開催講座数	講座	目標	—	—	—	25	34
		実績	—	—	—	25	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

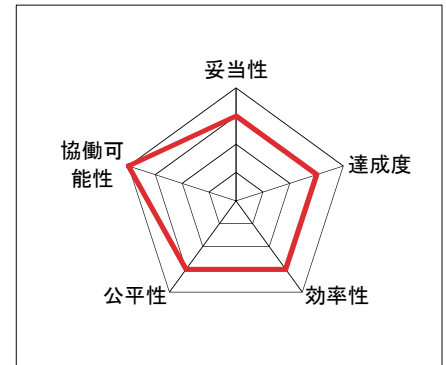
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成27年度までは社協に事業を委託していたが、平成28年度より市役所長寿課が事業を行うこととなった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
新規行政評価対象事業
(何をどのような状態に改善したのか)
平成28年度には、ITルームの改修工事を行い、研修室として運動系等、多目的に活用できるようにした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
1講座2,000円程度（教材費は別途）で、様々な講座に参加できる。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
受講生が固定化しており、新たな受講生の参加がほとんどいない講座もある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
福祉の家を介護予防・健康増進の拠点施設として活用を進めるためにも、運動系講座の拡大を図る。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑪	事務事業名	ホームヘルパー派遣事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	12
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成12年度		終了（予定）年度		平成28年度						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 65歳以上のひとり暮らしの方又は75歳以上の高齢者のみ世帯で、次のいずれかに該当する者。①要介護認定にて非該当判定の方②要介護認定申請中の方 【内容】 調理、衣類の洗濯及び補修、住居等の掃除及び整理整頓、生活必需品の買物等の支援を行う。
	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が住み慣れた地域の中で安心して自立した生活を営むことができるよう支援することを目的とする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			260	260	—
		決算			124	160	—

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	10	3	4	5	—
		実績	3	4	2	5	—
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

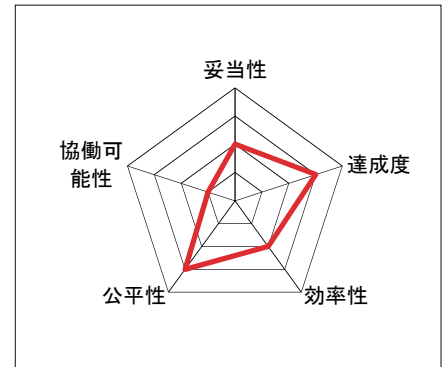
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 介護保険制度の改正に伴い平成29年3月に開始する新しい総合事業と連携して事業を実施する必要がある。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 現在、事業は介護保険事業者への委託となっており市民協働の余地がほとんどない。平成29年4月までに開始する新しい総合事業に伴い、市民主体の生活支援が創出されるよう支援し、現在の事業利用者がこうした場を利用できるように検討したい。 (何をどのような状態に改善したのか) 新しい総合事業が平成29年3月から開始したので、本事業を廃止する。
--

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	1



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 要介護認定に非該当または要介護認定申請中の方であっても、必要に応じてサービス利用ができる。
--

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 現在、事業は介護保険事業者への委託となっており市民協働の余地がほとんどない。
--

7. 今後の方向性

休・廃止

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 平成29年3月から新しい総合事業を開始した。基本チェックリストを実施し、事業対象者となれば、同等のサービスを利用することができるため、本事業は廃止する。引き続き、市民主体の生活支援が創出されるよう支援を検討していく。
--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑫	事務事業名	デイサービス事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	13
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成12年度	終了（予定）年度	平成28年度								

1. 事務事業の目的

対象・手段	<p>（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか）</p> <p>【対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 ・介護認定申請中の方、又は要介護認定で非該当の方 <p>【内容】</p> <p>日常生活訓練や趣味活動を通して、身体的な機能低下を防ぎ、生きがいのある生活を送る。</p>
意図	<p>（対象をどのような状態にしたいか）</p> <p>家に閉じこもりがちなたひとり暮らしの高齢者等の身体的な機能低下を防いだり、社会参加したりすることで、高齢者福祉の増進を図る。</p>

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			1,000	1,461	-
		決算			1,613	1,628	-

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	15	3	4	5	-
		実績	3	3	3	8	-
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

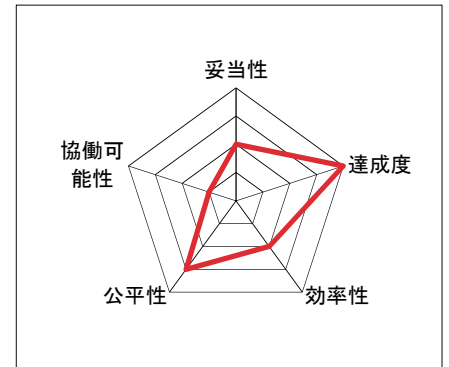
<p>（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）</p> <p>介護保険制度の改正に伴い平成29年3月に開始する新しい総合事業と連携して事業を実施する必要がある。</p>
--

5. 前年度からの改善状況

<p><参考：前年度の事務事業評価のコメント></p> <p>現在、事業は介護保険事業者への委託となっており市民協働の余地がほとんどない。平成29年4月までに開始する新しい総合事業に伴い、市民主体の通いの場が創出されるよう支援し、現在の事業利用者がこうした場を利用できるように検討したい。</p> <p>（何をどのような状態に改善したのか）</p> <p>新しい総合事業が平成29年3月から開始したので、本事業を廃止する。</p>

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	4
効率性	2
公平性	3
協働可能性	1



【アピールポイント】

<p>（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど）</p> <p>要介護認定に非該当または要介護認定申請中の方であっても、必要に応じてサービス利用ができる。</p>

【ウイークポイント】

<p>（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど）</p> <p>現在、事業は介護保険事業者への委託となっており市民協働の余地がほとんどない。</p>

7. 今後の方向性

休・廃止

【コメント】

<p>（改善の方法、今後の具体的展開など）</p> <p>平成29年3月から新しい総合事業を開始した。基本チェックリストを実施し、事業対象者となれば、同等のサービスを利用することができるため、本事業は廃止する。引き続き、市民主体の通いの場が創出されるよう支援を検討していく。</p>

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑬	事務事業名	高齢者住宅等安心確保事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	14
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成18年度		終了（予定）年度		—					

1. 事務事業の目的

対象 ・ 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・ 65歳以上の夫婦世帯 ・ 65歳以上の親族からなる二人世帯 ・ 65歳以上の単身者世帯 【内容】 県営山野田住宅内のシルバーハウジングに居住する者に対し、生活援助員の派遣等を行う。
	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			918	991	1,091
		決算			915	989	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入居者数 (年度末)	世帯	目標	24	24	24	24	24
		実績	23	23	22	24	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

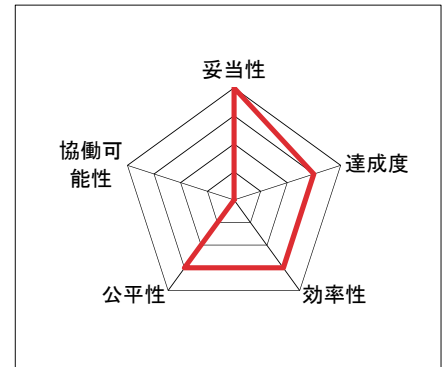
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 入居者の高齢化が進んでおり、日常生活における相談、支援の必要性が高まってきている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 新規行政評価対象事業 (何をどのような状態に改善したのか) 継続実施することで、高齢者等が安心して生活できる環境整備の支援を行った。
--

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 生活援助員の派遣等により、高齢者が安心して生活することができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 入居者の高齢化により、相談内容も複雑化しており、支援の在り方を検討する必要がある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 入居者が安心して生活できる環境整備を図るため、引き続き相談、支援体制の充実を図る。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑭	事務事業名	認知症介護家族支援事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	15
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成18年度	終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 認知症初期から中期（もっとも介護困難な時期）の介護を中心に行っている介護者。 【内容】 月に1回全6回コース。専門職による講義と家族交流会の実施。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	認知症の人をかかえる家族介護者が自身の問題解決能力を高めることにより、介護負担を軽減させる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			-	508	-
		決算			-	562	-

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
参加者数	人	目標	-	-	-	60	-
		実績	-	-	-	59	-
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

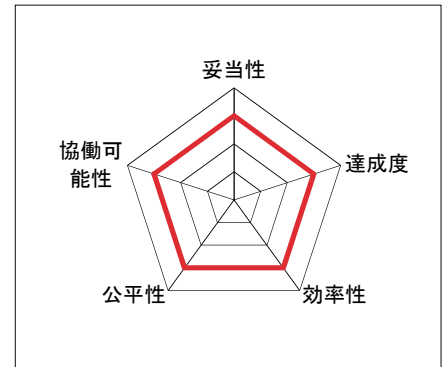
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
認知症の方が増え続ける中、認知症の方を介護する家族も増え、家族への支援の必要性が増している。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
新規行政評価対象事業
(何をどのような状態に改善したのか)
事業対象者や参加できる人が限られており、費用対効果を考慮し、毎年実施せず間隔を空けて実施している。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
回を重ねるにつれて、参加者同士の交流が深くなり自分の話しをするだけでなく相手の話を聞く余裕もみえてきた。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
特になし

7. 今後の方向性

休・廃止

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
基本的に3年に1回の頻度で継続的に開催していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑮	事務事業名	高齢者福祉事業計画策定事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	16
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成28年度		終了（予定）年度		平成29年度					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・高齢者福祉事業及び介護保険事業について ・アンケート調査及び関係者ヒアリング等から必要なサービスを適切に見込み、平成30年度～平成32年度の実施計画を策定し、同期間の介護保険料を策定する ・老人福祉法第20条の8に基づく老人福祉計画及び介護保険法第117条に基づく介護保険事業計画
意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・必要な高齢者支援サービスや介護サービスの把握を行い事業計画を策定することで、適切な事業を計画的に実施する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			-	3,527	2,510
		決算			-	2,344	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
策定委員会開催数	回	目標	1	5	-	2	5
		実績	1	5	-	2	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

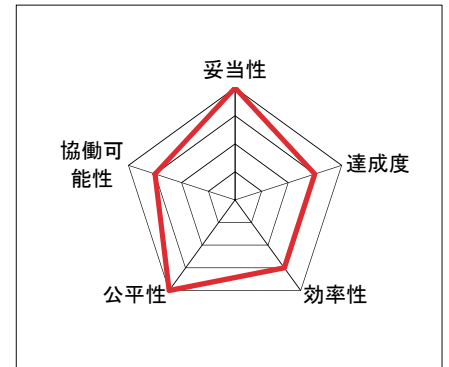
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
・3年ごとに新たな計画を策定。今回は平成28年度から2年度をかけて見直し。初年度である28年度は、アンケート調査も実施。 ・地域のニーズ及び課題の把握、将来的に高齢者が急増することを見込みいかに地域包括ケアを実現するか。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
・今年度新規対象
(何をどのような状態に改善したのか)

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
・幅広く意見を集めるために、2年度をかけて、計画の見直しをしている

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
・介護サービス量の見込みや介護保険料の設定について、市民協働での計画策定が難しい

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
・平成28年度から2年かけて計画の見直しを行い、平成29年度中に計画策定を完了する。 ・「一人ひとりに役割と居場所のあるまち」をめざすための各種施策を盛り込んでいく